

履修規定経済学科

2005年度以前の入学者に適用

経済学部のカリキュラムについて	47
I. 総説	48
A. 開設科目および卒業要件単位数	
1) 開設科目	
2) 卒業要件単位数	
3) 履修上の注意	
B. 履修単位制限	
1) 履修単位制限	
2) 履修上限単位数	
3) 履修上限単位数には含まれない科目	
4) 履修可能な選択科目の単位数	
C. 2年次から3年次への進級基準	
1) 進級基準	
2) 3年次への進級が認められなかった場合	
II. 経済学科授業科目一覧表	52
III-1. 分野別履修方法（基礎科目）	58
A. I群：外国語科目	
B. II群：基礎必修科目	
C. III群：基礎選択科目	
III-2. 分野別履修方法（専門科目）	60
A. I群：必修科目	
B. II群：選択必修科目	
C. III群：選択主要科目	
D. IV群：選択関連科目	
III-3. 分野別履修方法（総合科目）	62
III-4. 分野別履修方法（共通科目）	64
A. A群：体育実技・保健理論科目	
B. B群：選択外国語科目	
C. C群：一般共通科目	
III-5. 分野別履修方法（教職教科共通科目）	67

経済学部のカリキュラムについて

経済学部は、経済学科と経営学科から構成されています。両学科とも少人数教育と個性尊重教育の考えから「専門科目」として、それぞれ2年次ゼミナール、3年次ゼミナール、4年次ゼミナール（卒業論文を含む）を必修科目に定めています。その他に専門講義科目として、選択必修科目、選択主要科目と並んで、他学科科目と法律学関係科目から構成される選択関連科目が設けられています。経済学部の学生は、これらの専門科目の履修によって奥の深い専門領域の研究に進むこととなりますが、しかし同時に、広い視野で社会を総合的に把握するために、「総合科目」の履修を通して幅広い教養を習得することが要請されています。総合科目は、社会・人文科学系の科目と自然・情報科学系の科目およびオープン科目から構成され、学生の興味と精神的発達度に応じて自由な履修が可能になるように、1～4年に配当されています。

さらに本学部では、とりわけ1、2年次を対象に、専門の経済学、経営学を学ぶための基礎として「基礎科目」が用意されています。ここでは、外国語科目（英語、および「独語・仏語・中国語」のうちいずれか一つ）、経済学、数学のほか、基礎的分野の講義科目が開設されており、新しく経済学、経営学を学ぼうとしている学生諸君に対し、社会科学としての学問の道筋を示します。クラス単位で行われる外国語科目と数学の授業は、少人数クラスの導入によって教育効果が高まるよう配慮されています。

1年次の英語の授業については、CALL教室やAV機材の活用等によって国際語としての英語を駆使できる学生の育成をめざしているところに、経済学部の特色があります。さらに2年次の英語では、講読のほかに週1回、就職活動を見すえたTOEIC準備コース、ネイティブの教師による英会話コース、時事英語コース、文化的理解をさらに深める英文精読コースの中から個々の学生の自主的関心に応じて選択できる授業が設けられています。

最後に、経済学部の科目体系の第4番目の柱として「共通科目」があります。共通科目とは、経済学科と経営学科に共通して設置されている科目で、現在のところ体育実技・保健理論科目、選択外国語科目、一般共通科目がこれに属しますが、ここに配当されている単位数は、必修科目以外の経済学部の全科目で充当することができます。先の総合科目やこの共通科目には、ともすれば専門教育に片寄りがちな風潮の中で、学生の選択の幅を少しでも広げることによって、自由でバランスのとれた人格を育成したいという願いが込められています。

複雑化し多様化していく現代社会の中で、経済学、経営学が果たすべき役割はますます大きくなりつつあります。経済学部では、社会科学としての経済学、経営学を主軸に据えながらも、一方で人文科学や自然科学などの他の学問分野と協力し、他方では外国語教育の支援を得て、確固とした専門的知識と幅広い見識を備え、かつ国際的文化交流と相互理解に貢献しうるエコノミスト、ビジネスマンを育てたいと考えています。

I 総説

A 開設科目および卒業要件単位数

1) 開設科目

授業科目は、**基礎科目**、**専門科目**、**総合科目**、**共通科目**、および**教職教科共通科目**の5つの分野から構成されている。

2) 卒業要件単位数

卒業に必要な単位数は136単位であり、**基礎科目**、**専門科目**、**総合科目**、および**共通科目**の4分野から第1表に示す規定の単位数を修得しなければならない。

3) 履修上の注意

履修にあたっては、後述の履修単位制限および2年次から3年次への進級基準に十分注意すること。

第1表 経済学科 開設科目および卒業要件単位数

分野	区分	授業科目		学年配当	規定単位数
基礎科目	I群	科外国語 目語	英語	1, 2	8
			独語・仏語・中国語のうちいずれか一つ	1, 2	8
	II群	科基礎必修 目修	経済学	1	4
			数学I	1	4
III群		基礎選択科目	1~4	12	
専門科目	I群		必修科目	2~4	12
	II群		選択必修科目	2~4	28 (注1)
	III群		選択主要科目	1~4	24
	IV群		選択関連科目	1~4	16
総合科目	A群		社会・人文科学系科目	1~4	16
	B群		自然・情報科学系科目		
	C群		全学共通教育科目(含むオープン科目) (注2)		
共通科目	A群		体育実技・保健理論科目	1~4	4 (注3)
	B群		選択外国語科目		
	C群		一般共通科目		
教 職 教 科 共 通 科 目				2~4	-(注4)
合 計					136

[第1表の注意事項]

(注1) 専門科目Ⅱ群
(選択必修科目)

規定単位数を超えて修得した場合は、**専門科目Ⅲ群**（選択主要科目）の必要単位数に充当することができる。

(注2) 総合科目

総合科目C群は、全学共通教育の実施に伴い、2007年度に、名称がオープン科目から全学共通教育科目（含むオープン科目）となった。
※オープン科目は2005年度入学者を対象に開設されている。2004年度以前の入学者については、共通科目として扱われる。履修できる科目は66ページの第16表を参照すること。

(注3) 共通科目

共通科目の4単位は、第2表に示す分野・区分の授業科目のいずれによっても充当することができる。

第2表 共通科目の単位数に充当できる授業科目

分野	区分	授 業 科 目
基礎科目	Ⅲ群	基礎選択科目
専門科目	Ⅱ群	選択必修科目
	Ⅲ群	選択主要科目
	Ⅳ群	選択関連科目
総合科目	A群	社会・人文科学系科目
	B群	自然・情報科学系科目
	C群	全学共通教育科目（含むオープン科目）

(注4) 教職教科共通科目

この科目の修得単位は卒業要件単位としては認められず、余剰単位の取り扱いとなる。

B 履修単位制限

1) 履修単位制限

この制度は、各自が履修登録するにあたり、学問上の興味や知的関心、さらには時間的制約などを十分考慮して授業科目を選択し、いったん登録した科目は途中で放棄することなく最後まで単位の修得を目指して努力するように設けられたものである。

2) 履修上限単位数

第3表 履修上限単位数

1年	2年	3年	4年
44	44	48	48

3) 履修上限単位数には含まれない科目

- ① ゼミナール
- ② 共通科目（A群：体育実技・保健理論科目，B群：選択外国語科目，C群：一般共通科目）
- ③ 教職教科共通科目
- ④ 教職課程における教職に関する科目（【教職課程】参照）

4) 履修可能な選択科目の単位数

〈1年次〉

- ① 1年次必修科目の総単位数は、計18単位である。
- ② したがって、基礎科目Ⅲ群（基礎選択科目）、1年次配当の専門科目および総合科目の単位を合計して26単位まで履修することができる。
- ③ さらに、上記44単位に加えて共通科目および教職課程における教職に関する科目を履修することもできる。

第4表 1年次必修科目および履修可能な選択科目の単位数

必修科目単位数			履修可能な選択科目の単位数	履修上限単位数には含まれない科目
18			26	
英語	講読・LL	4	基礎科目Ⅲ群（基礎選択科目）、 1年次配当の専門科目、 総合科目 の中から選択	共通科目 教職課程における 教職に関する科目
独語・仏語	初級文法・講読	6		
中国語	Ia・Ib			
経済学		4		
数学I		4		

〈2年次〉

- ① 2年次必修科目（ゼミナールを除く）の総単位数は計6単位である。
- ② したがって、基礎科目Ⅲ群（基礎選択科目）、1，2年次配当の専門科目および総合科目の単位を合計して38単位まで履修することができる。
- ③ さらに、上記44単位に加えて共通科目、教職教科共通科目および教職課程における教職に関する科目を履修することもできる。

第5表 2年次必修科目（ゼミナールを除く）および履修可能な選択科目の単位数

必修科目単位数			履修可能な選択科目の単位数	履修上限単位数には含まれない科目
6			38	
英語	講読・コース別	4	基礎科目Ⅲ群（基礎選択科目）、 1，2年次配当の専門科目、 総合科目 の中から選択	共通科目 教職教科共通科目 教職課程における 教職に関する科目
独語・仏語	中級	2		
中国語	Ⅱ			

（注意）1年次で不合格となった必修科目は2年次において必ず再履修しなければならない。この場合、再履修科目も履修単位制限内に収めなければならない。

- 〈3, 4年次〉
- ① 「3年次ゼミナール」, 「4年次ゼミナール (卒業論文を含む)」の単位は履修上限単位数に含まれないので, 各年次とも48単位以内で履修する科目を選ぶことができる。
 - ② さらに, 上記48単位に加えて**共通科目**, **教職教科共通科目**および教職課程における教職に関する科目を履修することもできる。
 - ③ 3年次までの修得単位数によっては4年次に48単位を履修しても卒業必要単位数に満たないことがある。その場合も, 「4年次ゼミナール (卒業論文を含む)」を履修する。さらに次年度に「4年次ゼミナール (卒業論文を含む)」を履修しなければならない。

C | 2年次から3年次への進級基準

1) 進級基準

2年次から3年次へ進級するには, **基礎科目**, **専門科目**, **総合科目**のそれぞれについて, 2年次終了までに以下の第6表に示す所定の単位を修得していなければならない。

第6表 進級基準

分野	区分		単位数	
1. 基礎科目	I 群	外国語科目	英語	8
			独語, 仏語, 中国語 のいずれか1つ	8
	II 群	基礎必修科目	経済学	4
			数学 I	4
	III 群	基礎選択科目		8
2. 専門科目	I 群	必修科目	2年次ゼミナール	4
	II 群	選択必修科目		12
	III 群	選択主要科目		
3. 総合科目				4
計				52以上

〔第6表の注意事項〕

基礎科目 III 群 (基礎選択科目) を8単位を超えて修得した場合には, 進級に必要な**専門科目 II・III 群**の単位数 (12単位) に充当することができる。

ただし, その単位は卒業に必要な専門科目の単位としては認められないので注意すること。

2) 3年次への進級が認められなかった場合

- ① 「2年次ゼミナール」を再履修しなければならない, したがって卒業は延期されることになる (【**授業に関すること**】IV. 特別な履修登録手続きを必要とする科目) を参照すること)。
- ② 3, 4年次に配当された**専門科目**のうち**専門科目 III 群** (選択主要科目), **専門科目 IV 群** (選択関連科目) の2分野より合計12単位まで履修することができる。

II

経済学科授業科目一覧表(第7表)

履修規定

経済2005以前

学年配当		1年	2年
分野・区分			
専 門 科 目	I群：必修科目		2年次ゼミナール④
	II群：選択必修科目		マクロ経済学④ 経済学史④ ミクロ経済学④ 経済史④ 統計学④ 社会政策④
	III群：選択主要科目	※現代経済入門Ⅰ② ※現代経済入門Ⅱ②	国際関係論④ 英経済書講読④ 経済数学④
	IV群：選択関連科目	経営学総論④	経営史④ 原価計算論④ 基礎簿記④ ※企業会計論④ 経営管理論④ 商学通論④ ※会計学総論④ 消費者行動論④ 財務会計論④ 商品開発論④ ※商品学④ ※ベンチャービジネス論④ 英経営書講読Ⅰ④ 英経営書講読Ⅱ④
		民法概論④ 憲法④ 商法概論④	

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

3,4年		卒業要件 単位数
3年次ゼミナール④	4年次ゼミナール(卒業論文を含む)④	12
財政学④ 国際経済学④	経済政策④ 日本経済史④	28
経済原論④ 数理経済学④ ※経済変動論④ 社会主義経済学④ 経済統計論④ 計量経済学④ ※財政各論④ 金融論④ 国際金融論④ ※経済計画論④ 経済地理学④ 産業経済学④	開発経済学Ⅰ② 開発経済学Ⅱ② 農業経済学④ 日本経済論Ⅰ② 日本経済論Ⅱ② ※世界経済事情④ ※現代アメリカ経済論④ 経済思想史④ 西洋経済史④ 東洋経済史④ ※アメリカ経済史④ 外国史概説④	※現代経済史④ 社会保障論④ 労使関係論④ 社会問題Ⅰ② 社会問題Ⅱ② ※独経済書講読④ 仏経済書講読④ 応用経済学特別講義Ⅰ② ※応用経済学特別講義Ⅱ② 応用経済学特別講義Ⅲ② 応用経済学特別講義Ⅳ②
※経営学原理④ 経営組織論④ 経営戦略論④ ※財務管理論④ 人的資源論④ ※日本経営論④ ※国際経営論④ 管理会計論④ ※会計監査論④ 税務会計論④	経営分析④ 金融機関論④ 証券市場論④ マーケティング総論④ ※貿易論④ 交通論④ 保険論④ ※管理工学④ ※コンピュータ論④ 経営統計学④	経営情報論④ ※生産管理論④ 企業論④ ※公企業論④ ※中小企業論④ 経営学特殊講義Ⅰ② ※経営学特殊講義Ⅱ② 経営学特殊講義Ⅲ② ※経営学特殊講義Ⅳ② 経営学特殊講義Ⅴ②
※民法Ⅰ(総則)④ ※民法Ⅱ(物権)④ ※民法Ⅲ(債権総論)④ ※民法Ⅳ(債権各論)④ ※民法Ⅴ(親族・相続)④ 会社法④ 国際法Ⅰ④ 国際法Ⅱ④ 行政法Ⅰ④	行政学④ ※手形法・小切手法④ 労働基準法④ 労働組合法④ 国際取引法④ 環境法② ※商行為法④ 社会保障法④ 税法④	金融商品取引法② 経済法④ 国際経済法④ 公務員法・行政組織法② 消費者法Ⅰ② 消費者法Ⅱ② 知的財産法④

II. 第7表 2005年度入学者用 経済学科授業科目一覧表（つづき）

学年配当		1年			
分野・区分					
基礎科目	I群：外国語科目	英語(1)講読②	英語(1)LL②		
		独語(文法)④	独語(講読)②		
		仏語(文法)④	仏語(講読)②		
		中国語I a④	中国語I b②		
基礎必修科目	経済学④				
	数学I④				
基礎選択科目	〔-〔1～4年〕-〕 ※社会科学概論④ ※統計入門④ 空間システム論入門④ ヨーロッパ近現代史④ ※社会思想史④ 社会学入門④ 日本近現代史④ アジア近現代史④				
総合科目	A群：社会・人文科学系科目	〔-〔1～4年〕-〕 心理学④ ※外国文化II A④ ※外国文化III B④ 法学(含む日本国憲法)④ 外国文化II B④ 外国文化IV A④ 外国文化I④ ※外国文化III A④ ※外国文化IV B④			
	B群：自然・情報科学系科目	〔-〔1～4年〕-〕 数学II④ 生涯スポーツ論I② ※自然科学概論④ ※物理学④ 天文学④ ※生涯スポーツ論II② ※自然科学史④ ※化学④			
	C群：全学共通教育科目(含むオープン科目)	〔-〔1～4年〕-〕 メディア論入門④ 哲学入門④ 現代社会論I〈現代の宗教〉④ 宗教学入門④ 現代社会論II〈サブカルチャー論〉④ 倫理学入門④ 現代社会論III〈ジェンダー論〉④ 西洋思想入門④ 現代社会論IV〈戦後日本文化論〉④ 東洋思想入門④ 現代社会論V〈現代のマスコミ〉④ 日本思想入門④ 現代社会論特別講義I② 思想・人間論I〈科学の思想〉④ 現代社会論特別講義II② 思想・人間論II〈イメージを“よむ”〉④ 国際関係論入門④ ※思想・人間論III④ 経済学入門④ ※思想・人間論特別講義I② 政治学入門④ ※思想・人間論特別講義II② 情報社会論入門④ 文学入門④ 社会構造論I〈自由と平等〉④ 言語学入門④ 社会構造論II〈ネットワークと組織〉④ 音楽入門④ 社会構造論III〈市民活動と行政〉④ 表象文化論入門④ ※社会構造論IV④ 表現文化論I〈日本語の“いま”〉④ 社会構造論V〈教育と社会〉④ 表現文化論II〈美術の“いま”〉④ ※社会構造論特別講義I② 表現文化論III〈映画の“いま”〉④ ※社会構造論特別講義II② 表現文化論IV〈伝統芸術文化論〉④			
共通科目	A群：体育実技・保健理論科目	【体育実技科目は、Ⅲ-4 分野別履修方法(共通科目)を参照】			
	B群：選外外国語科目	〔-〔1～4年〕-〕 選択英語② 英語リーディング&ライティング(上級)② 英語リスニング&スピーキング(初級)② 英会話選択② 英語リスニング&スピーキング(中級)② ビジネス英語② 英語リスニング&スピーキング(上級)② 英文多読② 英語リーディング&ライティング(初級)② Academic Communication② 英語リーディング&ライティング(中級)② 独会話選択(初級)②			
	C群：一般共通科目	〔-〔1～4年〕-〕 WRD④ コンピュータ・リテラシーE② コンピュータ・リテラシーA1② 総合講座I(美)② コンピュータ・リテラシーA2② 総合講座II(感動を創る)② コンピュータ・リテラシーB② ※総合講座III② コンピュータ・リテラシーC② 総合講座IV(環境)② コンピュータ・リテラシーD②			
教職教科共通科目		【教職教科共通科目は、Ⅲ-5 分野別履修方法(教職教科共通科目)を参照】			

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

2年	3,4年	卒業要件 単位数		
英語(2)講読② 英語(2)コース別②		8		
独語(中級)②		8		
仏語(中級)②				
中国語Ⅱ②				
		4		
		4		
※アメリカ近現代史④ ※社会学④	※地理学④ ※日本史④	※西洋史④ ※東洋史④	※現代史④	12
※哲学④ ※倫理学④ ※論理学④	※政治学④ ※社会心理学④ ※教育学④	※教育社会学④ ※民俗学④ ※国文学④	※国語学④	16
※生物学④ ※人類学④	※情報処理④ ※データ分析④	※自然科学講義Ⅰ② ※自然科学講義Ⅱ②	※自然科学講義Ⅲ② ※自然科学講義Ⅳ②	
※表現文化論Ⅴ④ ※表現文化論特別講義Ⅰ② ※表現文化論特別講義Ⅱ② 歴史学入門④ 歴史文化論Ⅰ(日本史を見直す)④ 歴史文化論Ⅱ(江戸の文化)④ 歴史文化論Ⅲ(グローバル・ヒストリーと今日)④ 歴史文化論Ⅳ(地域と国家)④ 歴史文化論Ⅴ(歴史の中の人の移動)④ ※歴史文化論特別講義Ⅰ② ※歴史文化論特別講義Ⅱ② 文化人類学入門④ 地域空間論Ⅰ(EU論)④ ※地域空間論Ⅱ④ 地域空間論Ⅲ(東南アジアの社会と文化)④ 地域空間論Ⅳ(現代アメリカ論)④ ※地域空間論Ⅴ④ 地域空間論Ⅵ(アフリカの社会と文化)④ 地域空間論Ⅶ(日本と東アジアの社会と文化)④ 地域空間論Ⅷ(中東の社会と文化)④	地域空間論特別講義Ⅰ② 地域空間論特別講義Ⅱ② 数理の世界④ 数理学Ⅰ(情報と論理)④ 数理学Ⅱ(コンピュータと数理)④ 物理の世界④ 化学の世界④ 生命科学の世界④ ※科学史④ 自然科学Ⅰ(自然と産業)④ 自然科学Ⅱ(環境論)④ 自然科学Ⅲ(地球科学)④ ※数理・自然科学特別講義Ⅰ② ※数理・自然科学特別講義Ⅱ② こころと身体④ 心身論Ⅰ(人間のこころ)④ 心身論Ⅱ(こころと発達)④ 心身論Ⅲ(運動・スポーツと心身のしくみ)④ ※心身論特別講義Ⅰ② ※心身論特別講義Ⅱ②	ギリシャ語(初級)④ ギリシャ語(中級)④ ラテン語(初級)④ ラテン語(中級)④ マスコミ研究法② 特殊講義(東アジアの国際関係)② 比較行動学④ 生物進化と多様性④ こころの健康② 身体・運動と健康② 食と健康④		
独会話選択(中級)② 独語選択(初級)② 独語選択(中級)② ※独語選択(上級)② 仏会話選択(初級)② 仏会話選択(中級)②	仏語選択(初級)② 仏語選択(中級)② ※仏語選択(上級)② スペイン語選択(初級)② スペイン語選択(中級・ディプロム)② 中国語選択(初級)②	中国語選択(中級・ディプロム)② 中国語選択(中級・講読)② 韓国語選択(初級)② 韓国語選択(中級・ディプロム)② 海外短期語学研修②	4	
成城学園を知る② 成城学Ⅰ(柳田國男と民俗学)② 成城学Ⅱ(高垣寅次郎の世界)② 成城学Ⅲ(成城フィールド・スタディー)② 成城学Ⅳ(成城フィールド・スタディー)② 成城学Ⅴ(成城と自然)②	キャリア形成論Ⅰ② キャリア形成論Ⅱ② キャリア形成論Ⅲ② キャリア形成論Ⅳ②		—	
合計			136	

Ⅱ. 第7表 2003・2004年度入学者用 経済学科授業科目一覧表（つづき）

学年配当		1年		
分野・区分				
基礎科目	I群：外国語科目	英語(1)講読②	英語(1)LL②	
		独語(文法)④	独語(講読)②	
		仏語(文法)④	仏語(講読)②	
		中国語I a④	中国語I b②	
基礎必修科目	経済学④			
	数学I④			
基礎選択科目	[1～4年] 社会科学概論④ ※社会思想史④ ※統計入門④		社会学入門④ 空間システム論入門④ 日本近現代史④ ヨーロッパ近現代史④ アジア近現代史④ ※アメリカ近現代史④	
	A群：社会・人文科学系科目	[1～4年] 心理学④ 法学(含む日本国憲法)④ 外国文化I④		※外国文化II A④ 外国文化II B④ ※外国文化III A④ ※外国文化III B④ 外国文化IV A④ ※外国文化IV B④
B群：自然・情報科学系科目		[1～4年] 数学II④ 天文学④ 生涯スポーツ論I②		※生涯スポーツ論II② ※自然科学概論④ ※自然科学史④ ※物理学④ ※化学④ ※生物学④
	C群：全学共通教育科目	[1～4年] メディア論入門④ 現代社会論I〈現代の宗教〉④ 現代社会論II〈サブカルチャー論〉④ 現代社会論III〈ジェンダー論〉④ 現代社会論IV〈戦後日本文化論〉④ 現代社会論V〈現代のマスコミ〉④ 現代社会論特別講義I② 現代社会論特別講義II② 国際関係論入門④ 経済学入門④ 政治学入門④ 情報社会論入門④ 社会構造論I〈自由と平等〉④ 社会構造論II〈ネットワークと組織〉④ 社会構造論III〈市民活動と行政〉④ ※社会構造論IV④ 社会構造論V〈教育と社会〉④ ※社会構造論特別講義I② ※社会構造論特別講義II②		哲学入門④ 宗教学入門④ 倫理学入門④ 西洋思想入門④ 東洋思想入門④ 日本思想入門④ 思想・人間論I〈科学の思想〉④ 思想・人間論II〈イメージを“よむ”〉④ ※思想・人間論III④ ※思想・人間論特別講義I② ※思想・人間論特別講義II② 文学入門④ 言語学入門④ 音楽入門④ 表象文化論入門④ 表現文化論I〈日本語の“いま”〉④ 表現文化論II〈美術の“いま”〉④ 表現文化論III〈映画の“いま”〉④ 表現文化論IV〈伝統芸術文化論〉④
A群：体育実技・保健理論科目		【体育実技科目は、Ⅲ-4 分野別履修方法（共通科目）を参照】		
共通科目	B群：選択外国語科目	[1～4年] 選択英語② 英語リスニング&スピーキング(初級)② 英語リスニング&スピーキング(中級)② 英語リスニング&スピーキング(上級)② 英語リーディング&ライティング(初級)② 英語リーディング&ライティング(中級)②		英語リーディング&ライティング(上級)② 英会話選択② ビジネス英語② 英文多読② Academic Communication② 独会話選択(初級)②
		C群：一般共通科目(含むオープン科目)	[1～4年] WRD④ コンピュータ・リテラシーA1② コンピュータ・リテラシーA2② コンピュータ・リテラシーB② コンピュータ・リテラシーC② コンピュータ・リテラシーD②	
教職教科共通科目		【教職教科共通科目は、Ⅲ-5 分野別履修方法（教職教科共通科目）を参照】		

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

2年	3,4年	卒業要件 単位数
英語(2) 講読② 英語(2) コース別②		8
独語(中級)②		8
仏語(中級)②		
中国語Ⅱ②		
		4
		4
※社会学④ ※西洋史④ ※地理学④ ※東洋史④ ※日本史④ ※現代史④		12
※哲学④ ※政治学④ ※教育社会学④ ※国文学④ ※倫理学④ ※社会心理学④ ※民俗学④ ※論理学④ ※教育学④ ※国語学④		
※人類学④ ※自然科学講義Ⅰ② ※自然科学講義Ⅳ② ※情報処理④ ※自然科学講義Ⅱ② ※データ分析④ ※自然科学講義Ⅲ②		
※表現文化論Ⅴ④ 地域空間論特別講義Ⅰ② ※表現文化論特別講義Ⅰ② 地域空間論特別講義Ⅱ② ※表現文化論特別講義Ⅱ② 数理の世界④ 歴史学入門④ 数理科学Ⅰ〈情報と論理〉④ 歴史文化論Ⅰ〈日本史を見直す〉④ 数理科学Ⅱ〈コンピュータと数理〉④ 歴史文化論Ⅱ〈江戸の文化〉④ 物理の世界④ 歴史文化論Ⅲ〈グローバル・ヒストリーと今日〉④ 化学の世界④ 歴史文化論Ⅳ〈地域と国家〉④ 生命科学の世界④ 歴史文化論Ⅴ〈歴史の中の人の移動〉④ ※科学史④ ※歴史文化論特別講義Ⅰ② 自然科学Ⅰ〈自然と産業〉④ ※歴史文化論特別講義Ⅱ② 自然科学Ⅱ〈環境論〉④ 文化人類学入門④ 自然科学Ⅲ〈地球科学〉④ 地域空間論Ⅰ〈EU論〉④ ※数理・自然科学特別講義Ⅰ② ※地域空間論Ⅱ④ ※数理・自然科学特別講義Ⅱ② 地域空間論Ⅲ〈東南アジアの社会と文化〉④ ころと身体④ 地域空間論Ⅳ〈現代アメリカ論〉④ 心身論Ⅰ〈人間のころと心〉④ ※地域空間論Ⅴ④ 心身論Ⅱ〈ころと発達〉④ 地域空間論Ⅵ〈アフリカの社会と文化〉④ 心身論Ⅲ〈運動・スポーツと心身のしくみ〉④ 地域空間論Ⅶ〈日本と東アジアの社会と文化〉④ ※心身論特別講義Ⅰ② 地域空間論Ⅷ④ ※心身論特別講義Ⅱ② 地域空間論Ⅷ〈中東の社会と文化〉④		16
独会話選択(中級)② 仏語選択(初級)② 中国語選択(中級・ディプロム)② 独語選択(初級)② 仏語選択(中級)② 中国語選択(中級・講読)② 独語選択(中級)② ※仏語選択(上級)② 韓国語選択(初級)② ※独語選択(上級)② スペイン語選択(初級)② 韓国語選択(中級・ディプロム)② 仏会話選択(初級)② スペイン語選択(中級・ディプロム)② 海外短期語学研修② 仏会話選択(中級)② 中国語選択(初級)②		4
成城学園を知る② キャリア形成論Ⅰ② ギリシャ語(初級)④ 成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉② キャリア形成論Ⅱ② ギリシャ語(中級)④ 成城学Ⅱ〈高垣寅次郎の世界〉② キャリア形成論Ⅲ② ラテン語(初級)④ 成城学Ⅲ〈成城フィールド・スタディー〉② キャリア形成論Ⅳ② ラテン語(中級)④ 成城学Ⅳ〈成城フィールド・スタディー〉② 特殊講義〈東アジアの国際関係〉② 成城学Ⅴ〈成城と自然〉② マスコミ研究法B②〔2～4年〕		
合計		136

Ⅲ-1 分野別履修方法(基礎科目)

A I群：外国語科目

経済学部では、英語および独語・仏語・中国語のいずれか1つが必修である。卒業・進級に必要な外国語科目の単位数は第8表のとおりである。

第8表 卒業・進級に必要な外国語科目の規定単位数

	英語	独語	仏語	中国語	計
1年次	2(講読) 2(LL)	4(初級文法) 2(初級講読)		4(Ia) 2(Ib)	10
2年次	2(講読)	2(中級)		2(Ⅱ)	6
	2(コース別) TOEIC準備コース 英会話コース 時事英語コース 英文精読コース				
計	8		8		16

【未修得科目の 再履修について】

1) 「英語」

不合格となった科目の配当年次や授業内容に関らず不合格となった科目数分の「英語補講」(Ⅰ～Ⅳまで開講)を履修すること。

※登録方法については、【[授業に関すること](#)】Ⅳ. 特別な履修登録手続きを必要とする科目】を参照すること。

2) 「独語」

単位未修得科目	再履修の方法
「初級文法」	補講ⅠとⅡの両方を履修すること。
「初級講読」	4月9日(金) 18:00までに、教務部教務課に特別履修申請書を提出すること。
「中級」	2年のいずれかのクラスで再履修すること。

3) 「仏語」

単位未修得科目	再履修の方法
「初級文法」	補講ⅠとⅡの両方を履修すること。
「初級講読」	4月9日(金) 18:00までに、教務部教務課に特別履修申請書を提出すること。
「中級」	2年のいずれかのクラスで再履修すること。

4) 「中国語」

単位未修得科目	再履修の方法
「Ⅰa」	補講ⅠとⅡの両方を履修すること。
「Ⅰb」	4月9日(金) 18:00までに、教務部教務課に特別履修申請書を提出すること。
「Ⅱ」	2年のいずれかのクラスで中国語(中級)を履修すること。ただし、Web履修登録を行うことができないため、履修登録締切日までに教務部教務課に特別履修申請書を提出すること。

B Ⅱ群：基礎必修科目

経済学部では、「経済学」と「数学Ⅰ」を1年次の必修科目としている。卒業・進級に必要な単位数は第9表のとおりである。

第9表 基礎必修科目

	経済学	数学Ⅰ	計
1年次	4	4	8

【未修得科目の 再履修について】

1) 「経済学」

「経済学」(木曜1限 [授業コード1901])〈シラバスは「経済学講義・演習Ⅰ・Ⅱ」を参照〉を再履修して単位を修得すること。

2) 「数学Ⅰ」

4月9日(金)18:00までに、教務部教務課の指示を受け、特別履修申請書を提出すること。

C Ⅲ群：基礎選択科目

1) 基礎選択科目

基礎選択科目は、第10表のとおりである。

これらは、**専門科目**を学ぶに際して、様々な**専門科目**相互の関連や科目体系全体についての理解を深めるための科目である。

第10表 基礎選択科目

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
社会科学概論	4	ヨーロッパ近現代史	4	※日本史	4
※社会思想史	4	アジア近現代史	4	※西洋史	4
社会学入門	4	※アメリカ近現代史	4	※東洋史	4
空間システム論入門	4	※社会学	4	※現代史	4
日本近現代史	4	※地理学	4	※統計入門	4

注) ※印の科目は本年度休講である。

2) 履修上の注意

- ① 進級に必要な単位数は8単位であり、卒業に必要な単位数は12単位である。
- ② 「統計入門」は、パソコンによる経済データの基礎的な分析能力を身につけることを目的としている。
- ③ 2009年度以前の科目の新設・名称変更について、112ページの一覧表を参照すること。

Ⅲ-2 分野別履修方法(専門科目)

専門科目は、Ⅰ群：必修科目として、「2年次ゼミナール」、「3年次ゼミナール」、「4年次ゼミナール(卒業論文を含む)」があり、他に、Ⅱ群：選択必修科目、Ⅲ群：選択主要科目と並んで、経営学科の専門科目および法律学関係科目からなるⅣ群：選択関連科目が設けられている。卒業に必要な各群の規定単位数は第11表に示され、またそれぞれの開設科目、学年配当は経済学科授業科目一覧表(第7表)に示される。

なお、2009年度以前の科目の新設・名称変更について、112ページの一覧表を参照すること。

第11表 専門科目規定単位数

専門科目	区分	授業科目	規定単位数
	Ⅰ群	必修科目	12
	Ⅱ群	選択必修科目	28
	Ⅲ群	選択主要科目	24
	Ⅳ群	選択関連科目	16
	計		80

A Ⅰ群：必修科目

1) ゼミナールおよび卒業論文

2, 3, 4年次の学生は、全員がゼミナールに参加しなければならない。

ゼミナールは学生各人が学問上の興味や知的関心にしたがって選んだそれぞれのテーマについて少人数のグループに分かれ、特定の教員の指導のもとに活発な討論や研究発表を行いつつ、より深い学問の探求やその研究方法を主体的、実践的に身につけ、かつ、この過程を通じて卒業論文を完成することを目的としている。親しく教員に接し、教員の研究意欲や研究方法を感じ学びとることもこのゼミナールによって体験できる。

2) 履修上の注意

- ① ゼミナールは定員が定められており、それを超えた場合には選考することがある。
- ② 2, 3, 4年次を通して原則として同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならない。
- ③ 単位の認定は各年次に行うが、不合格の者は次の年次配当のゼミナールを履修することができず、当該年次ゼミナールを再履修しなければならない。
- ④ 2年次から3年次への進級基準を満たさない者は、「3年次ゼミナール」を履修することができない。
- ⑤ 「4年次ゼミナール(卒業論文を含む)」は4単位である。「4年次ゼミナール(卒業論文を含む)」が不合格の者は再履修し、卒業論文を再提出することが義務付けられる。
- ⑥ 卒業論文の提出要領については【授業に関することⅧ. 卒業論文】を参照すること。

※「2年次ゼミナール」の登録については、【授業に関することⅣ. 特別な履修登録手続きを必要とする科目】を参照すること。

B Ⅱ群：選択必修科目

経済学科授業科目一覧表（第7表）に従い、28単位以上を修得すること。なお、履修年次ごとの開設科目数は第12表のとおりである。

第12表 履修年次ごとの選択必修科目開設数

履修年次	2年次	3年次	4年次	計
開設科目数	6	4		10

〔第12表の注意事項〕

- ① 卒業に必要な単位数は28単位である。
- ② 規定以上に単位を修得した分は**専門科目Ⅲ群**（選択主要科目）の修得単位として卒業要件単位数に算入することができる。

C Ⅲ群：選択主要科目

経済学科授業科目一覧表（第7表）に従い、24単位以上を修得すること。

D Ⅳ群：選択関連科目

- ① 経済学科授業科目一覧表（第7表）に従い、16単位以上を修得すること。
- ② 「基礎簿記」[授業コード1228]は、2008年度までに「会計学総論」「会計学総論Ⅱ」の単位を修得している場合は履修することができない。
- ③ 「マーケティング総論」は2コマ開講するが、履修する場合はいずれか一方を選択する。
- ④ 「英経営書講読Ⅱ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ. 特別な履修登録手続きを必要とする科目を参照すること。
なお、「英経営書講読Ⅱ」は2009年度までに「英経営書講読」の単位を修得している場合は履修することができない。
- ⑤ 「経営学特殊講義Ⅰ～Ⅳ」は、同一名称の科目を反復して履修することができる。ただし、4単位までしか卒業要件単位数に算入することができない。同一名称の科目を反復して修得した場合や、Ⅰ～Ⅳを別々に修得した場合のどちらであっても、卒業要件単位数に算入できるのは「4単位まで」となるので、注意すること。
- ⑥ 2010年度に、「消費者行動論」が新設された。

Ⅲ-3 分野別履修方法(総合科目)

基礎科目・専門科目の履修を通して奥深い専門知識を修得するだけでなく、人間として幅広い教養と優れた社会人としての素養を身につけるために、総合科目を開設している。これは第13表に示すように、社会・人文科学系科目のA群、自然・情報科学系科目のB群および全学共通教育科目(含むオープン科目)のC群からなっている。

※C群は、全学共通教育の実施に伴い、2007年度に名称がオープン科目から全学共通教育科目(含むオープン科目)となった。なお、2006年度までに修得した単位は、オープン科目の単位として認定される。

1) 履修上の注意

- ① 卒業に必要な単位数は16単位である。
- ② 1～4年次に履修可能であるが、3年次に進級するには最低4単位が必要である。
- ③ 全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な科目があるので、【授業に関すること】Ⅳ. 特別な履修登録手続きを必要とする科目】を必ず参照すること。
- ④ 教員免許の取得を希望する者は「法学(含む日本国憲法)」が必修である。
- ⑤ 「自然科学講義Ⅰ～Ⅳ」は2科目4単位までを総合科目の修得単位とし、それ以上の修得点については共通科目の修得単位として取り扱う。

2) 第13表の注意事項

- ① 2010年度に、「外国文化ⅣA」「外国文化ⅣB」が新設された。
- ② 「外国文化Ⅰ」「外国文化ⅡA」「外国文化ⅢA」「外国文化ⅣA」は講義形式による授業であり、「外国文化ⅡB」と「外国文化ⅢB」「外国文化ⅣB」は原典講読の授業である。A(講義)とB(原典講読)を隔年で開講する。
- ③ 授業科目についている山カッコ内は副題を表し、科目名称には含まれない。
- ④ C群のオープン科目とは、本学の各学部が開設している授業科目のうち、全学生が、所属する学部の枠にとらわれず履修することができる授業科目である。(2005年度入学者のみ履修可)
- ⑤ 2009年度以前の科目の新設・名称変更・廃講について、112ページの一覧表を参照すること。

Ⅲ-4 分野別履修方法(共通科目)

履修規定

経済
2005
以前

経済学部では両学科に共通の選択科目として、**A群**：体育実技・保健理論科目、**B群**：選択外国語科目、**C群**：一般共通科目が設けられており、卒業に必要な単位として4単位までが認められる。ただし、共通科目の単位に充当できる授業科目(第2表)に示したとおり、**共通科目**の4単位は、**共通科目**に配置されている授業科目のほか、**基礎科目Ⅲ群**、**専門科目Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ群**または**総合科目**に属する授業科目のなかから、それぞれの卒業規定単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

A A群：体育実技・保健理論科目

第14表 体育実技・保健理論科目

体育実技科目 (各1単位)	定時コース	※剣道 水泳 卓球 ゴルフ テニス サッカー	ソフトボール トレーニング バドミントン バレーボール フットサル バスケットボール	フィットネス ジョグ・エクササイズ エアロビクス アクアエクササイズ レクリエーション・スポーツ
	集中コース	テニス	スキー	
保健理論科目	—			

注) ※印の科目は本年度休講である。

- ① 体育実技の登録の方法については、116ページを参照のこと。
- ② 2009年度以前の科目の廃講について、112ページの一覧表を参照すること。

B B群：選択外国語科目

選択外国語科目は、コミュニケーション能力や語学力全般の一層の向上を図ることを目的とし、1～4年次配当科目として開設されている。開設科目は第15表のとおりである。

第15表 選択外国語科目

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
選択英語	2	※ 独語選択(上級)	2
英語リスニング&スピーキング(初級)	2	仏会話選択(初級)	2
英語リスニング&スピーキング(中級)	2	仏会話選択(中級)	2
英語リスニング&スピーキング(上級)	2	仏語選択(初級)	2
英語リーディング&ライティング(初級)	2	仏語選択(中級)	2
英語リーディング&ライティング(中級)	2	※ 仏語選択(上級)	2
英語リーディング&ライティング(上級)	2	スペイン語選択(初級)	2
英会話選択	2	スペイン語選択(中級・ディプロム)	2
ビジネス英語	2	中国語選択(初級)	2
英文多読	2	中国語選択(中級・ディプロム)	2
Academic Communication	2	中国語選択(中級・講読)	2
独会話選択(初級)	2	韓国語選択(初級)	2
独会話選択(中級)	2	韓国語選択(中級・ディプロム)	2
独語選択(初級)	2	海外短期語学研修	2
独語選択(中級)	2		

注) ※印の科目は本年度休講である。

〔第15表の注意事項〕

- ① 「選択英語」および「海外短期語学研修」を除く選択外国語科目は、2006年度より全学共通教育科目として開設されている。全学共通教育科目の詳しい説明は、【授業に関することⅨ. 全学共通教育科目】に記載されている。また、「選択英語」および全学共通教育科目を履修する場合は、特別な手続きが必要となるので、【授業に関することⅣ. 特別な履修登録手続きを必要とする科目】を必ず参照すること。
- ② 「海外短期語学研修」については以下のとおりである。
一度単位の認定を受けた科目も再度履修することができ、同一年度に複数の科目を履修することもできる。ただし、認定された単位のうち卒業要件単位数に算入することができるのは2単位までである。

授 業 科 目	単 位	備 考
海外短期語学研修(英語)	2	研修内容等については、シラバスを参照のこと。 また、履修登録の方法については、【 <u>授業に関すること</u> Ⅳ. 特別な履修登録手続きを必要とする科目】を参照すること。
海外短期語学研修(独語)	2	
海外短期語学研修(仏語)	2	
海外短期語学研修(中国語)	2	

※海外短期語学研修はやむを得ない理由により実施されない場合がある。
研修が中止となった場合のことも考慮して、学修計画を立てておくこと。

- ③ 2009年度以前の科目の新設・名称変更について、112ページの一覧表を参照すること。

一般共通科目の開設科目は、第16表のとおりである。

【2005年度入学者適用】 第16表 一般共通科目

授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		単 位
全	WRD	4	全	成城学園を知る	2
全	コンピュータ・リテラシーA1	2	全	成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉	2
全	コンピュータ・リテラシーA2	2	全	成城学Ⅱ〈高垣寅次郎の世界〉	2
全	コンピュータ・リテラシーB	2	全	成城学Ⅲ〈成城フィールド・スタディー〉	2
全	コンピュータ・リテラシーC	2	全	成城学Ⅳ〈成城フィールド・スタディー〉	2
全	コンピュータ・リテラシーD	2	全	成城学Ⅴ〈成城と自然〉	2
全	コンピュータ・リテラシーE	2	全	キャリア形成論Ⅰ	2
全	総合講座Ⅰ〈美〉	2	全	キャリア形成論Ⅱ	2
全	総合講座Ⅱ〈感動を創る〉	2	全	キャリア形成論Ⅲ	2
全	※総合講座Ⅲ	2	全	キャリア形成論Ⅳ	2
全	総合講座Ⅳ〈環境〉	2			

注) 1～4年次配当科目として開設されている。

【2003・2004年度入学者適用】

授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		単 位
全	WRD	4	全	成城学Ⅲ〈成城フィールド・スタディー〉	2
全	コンピュータ・リテラシーA1	2	全	成城学Ⅳ〈成城フィールド・スタディー〉	2
全	コンピュータ・リテラシーA2	2	全	成城学Ⅴ〈成城と自然〉	2
全	コンピュータ・リテラシーB	2	全	キャリア形成論Ⅰ	2
全	コンピュータ・リテラシーC	2	全	キャリア形成論Ⅱ	2
全	コンピュータ・リテラシーD	2	全	キャリア形成論Ⅲ	2
全	コンピュータ・リテラシーE	2	全	キャリア形成論Ⅳ	2
全	総合講座Ⅰ〈美〉	2	オ	ギリシャ語(初級)	4
全	総合講座Ⅱ〈感動を創る〉	2	オ	ギリシャ語(中級)	4
全	※総合講座Ⅲ	2	オ	ラテン語(初級)	4
全	総合講座Ⅳ〈環境〉	2	オ	ラテン語(中級)	4
全	成城学園を知る	2	オ	特殊講義(東アジアの国際関係)	2
全	成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉	2	オ	マスコミ研究法B【2～4年次配当】	2
全	成城学Ⅱ〈高垣寅次郎の世界〉	2			

注) ① 「マスコミ研究法B」(2～4年次配当)を除き、1～4年次配当科目として開設されている。
 ② 授業科目名の前に「オ」と付いた科目は、本学の各学部が開設している授業科目のうち、全学生が、所属する学部の枠にとらわれず履修することができる授業科目(オープン科目)である。(2006年度新設)

〔第16表の注意事項〕

- ① 授業科目名の前に「全」と付いた科目は、2006年度に新設された全学共通教育科目である。全学共通教育科目の詳しい説明は、【授業に関することⅨ. 全学共通教育科目】に記載されている。なお、全学共通教育科目の中には特別な手続きが必要な科目があるので、【授業に関することⅣ. 特別な履修登録手続きを必要とする科目】を必ず参照すること。
- ② 授業科目についている山カッコ内は副題を表し、科目名称には含まれない。
- ③ ※印の科目は本年度休講である。
- ④ 2009年度以前の科目の新設・名称変更・廃講について、112ページの一覧表を参照すること。

Ⅲ-5 分野別履修方法(教職教科共通科目)

- ① 第17表に示す教職教科共通科目は、教職課程を登録した者が「教科に関する科目」として履修するために開設された科目であるが、教職課程を登録していない者もこれらの科目を履修することができる。
- ② 教職課程の登録如何を問わず、修得した単位は卒業・進級に必要な単位としては認められない(余剰単位の取り扱いとなる)。

第17表 教職教科共通科目

学年配当	科目名	単位
2年次	日本史概説	4
	歴史学特殊講義Ⅰ	4
	歴史学特殊講義Ⅱ	4
	歴史学特殊講義Ⅲ	4
	文化史特殊講義Ⅰ	4
	文化史特殊講義Ⅱ	4
	文化史特殊講義Ⅲ	4
	日本文化史	4
	東洋文化史	4
	西洋文化史	4
	人文地理学	4
	地理学講義	4
	地誌学	4
	哲学講義	4
	宗教学講義	4
	倫理学講義	4
	哲学史特殊講義	4

履修規定

経済
2005
以前